

認知症ケア学会で発表

去る10月24日(土), 25日(日), 神戸国際会議場にて, 日本認知症ケア学会第11回大会が開催され, 園芸療法課程6期生で本校園芸療法コーディネーターの上地あさひが「高齢者福祉施設職員からみた園芸療法の効果 ~兵庫県園芸療法導入促進事業の効果検証~」と題し, ポスター発表を行いました。

園芸療法導入促進事業では, H21年度までの4年間で, のべ26の医療・福祉施設において月1回~2回の頻度で, 園芸療法集団活動を計454回実施してきました。本研究はこれまでにに行った高齢者福祉施設の職員から得たアンケート結果をもとに, 職員が園芸療法をどのように捉えているか分析したものです。

この研究結果から施設職員は, 園芸療法について, “生きがい”や“交流促進”といった, 利用者の生活の活性化につながるような効果を感じていることがわかりました。月1回~2回の活動でも継続的に行うことで, 園芸療法が利用者のQOL向上やケアに役立つと思われます。一方, 身体機能や精神機能に関する効果については一層の理解が望まれます。今後は, ケアとしての園芸療法理解拡大とあわせて, 園芸療法の実施頻度を増やして, 心身機能へ与える効果の検証を行い, 治療(キュア)としての園芸療法の理解を深めていくことも, 園芸療法の普及, 園芸療法士の活躍の場拡大につながると考えられます。

